

今週（3月9日から3月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は週を通して390兆円台前半での推移となった。積み期間の最終週となったことで資金調達意欲は強かったものの、Gレポレートが▲0.10%を下回っていることや、先月末からの市場の混乱により待機資金が膨らんでいることなどの要因から、無担保コール O/N 加重平均レートは週初より低下基調で推移した。週初は国内勢を中心に、▲0.075～▲0.02%のレンジの出合いであったが、週後半にかけては▲0.087～▲0.03%の出合いとなった。週末の積みの最終日は一部で調整の動きも散見された。ターム物は引き続きオファー案件が少なく、来積み期スタートの月内物が散見された程度であった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは13日に2W物15,000億円がオファーされ、応札額8,840億円（期落ち額10,091億円）と札割れとなった。また、同日には国債買現先オペ（3月16～30日）が9時30分にオファーされた。Gレポレートが▲0.10%を下回っていることもあって、応札は5億円と、事務フローの確認とみられる応札があった程度であった。その他、国債買入オペ（残存期間5年超10年以下）が13時に2,000億円オファーされた。このところの国債の中長期ゾーンの急激な金利変動などに対応して実施されたと考えられる。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、▲0.200～▲0.080%程度の水準で推移した。週の後半には、積みの最終調整でレートを急速に切り下げる場面も見られた。また、13日には国債買現先オペが実施された。

SC個別銘柄では、5年139～142、10年336～356、20年169～171、30年59～65、40年9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢の買いが入っていることや、Gレポレートが低水準で推移していることを受けてか、週初は強含みで推移した。週半ばからは、債券が全体的に売られる動きとなったことで、絶対水準としてはまだ低いものの、弱含みでの推移となった。3M物は▲0.345～▲0.200%、6M物は▲0.310～▲0.250%、1Y物は▲0.295～▲0.260%での出合いが見られた。

9日に実施された6M物の入札は、前日3M物のセカンダリーマーケットが▲0.300%台まで買い進まれ、売りが出づらいつつ状況の中、WI取引において▲0.310%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.2872%、按分落札利回▲0.2516%と、テールが流れる結果となった。

11日に実施された短国買入オペは、前回と同額の5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.054%、按分落札利回較差+0.047%と、在庫調整の売りからか、弱めの結果となった。

13日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.245～▲0.220%で出合う中、平均落札利回▲0.2385%、按分落札利回▲0.1824%と、テールが流れる結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、電気機器、小売、ゴム、石油等の幅広い業態の大型発行があり、活況なマーケットとなった。先週に引き続き新型コロナウイルスの影響による前倒し、増額発行が見られた。このような動きもあって、先週3日の市場残高が過去最高であった2007年12月27日を上回った後、11日まで7営業日連続で過去最高の残高を更新した。今週は週を通じて24兆円台前半での推移となった。事業法人の発行増が市場を牽引しており、ノンバンク業態の残高は11日に初めて11兆円台に達した。発行レートについては、需給の緩みから上昇傾向が継続しており、特に期内物や発行の多い銘柄で足切が上昇する動きも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/9 (月)	19,698.76	△ 0.155	102.10	△ 0.060	△ 0.161	3,923,200
3/10 (火)	19,867.12	△ 0.050	103.25	△ 0.065	△ 0.104	3,923,200
3/11 (水)	19,416.06	△ 0.075	105.00	△ 0.065	△ 0.111	3,904,800
3/12 (木)	18,559.63	△ 0.065	104.00	△ 0.066	△ 0.153	3,918,700
3/13 (金)	17,431.05	△ 0.010	105.08	△ 0.067	△ 0.198	3,912,400

来週（3月16日から3月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/16 (月)	1月の機械受注統計(内閣府 8:50)	流動性供給 6,000億円 3/17発行			
3/17 (火)		TB1Y 19,000億円 3/23発行			米FOMC(1日目) 2月の米小売売上高 1月の米企業在庫 2月の米鉱工業生産・設備稼働率
3/18 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 10-12月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	TB3M 47,400億円 3/23発行			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 2月の米住宅着工件数 2月のユーロ圏消費者物価指数改定値
3/19 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 2月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)				
3/20 (金)	春分の日				2月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/16 (月)	400	2,500	2,900	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完 国債買現先		2,100 ▲10,100 ▲300 400 2,700 ▲7,200	▲3,600	▲700	特別交付税の払い TB3M発行▲47000償還42300 2Y償還11000 個人向け3・5・10Y発行▲4500 個人向け3・5Y償還400
3/17 (火)	▲1,000	▲2,000	▲3,000				0	▲3,000	流動性供給▲6000
3/18 (水)	▲1,000	1,000	0	貸出支援	▲23,500		▲23,500	▲23,500	確定申告
3/19 (木)	▲1,000	12,000	11,000				0	11,000	保険料等交付税の払い
3/20 (金)	春分の日								
週間合計	▲2,600	13,500	10,900	—	▲38,400	11,300	▲27,100	▲16,200	

3/16は日銀予想、3/17以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、無担保コール市場は新しい積み期間に入ることや、レポレートが▲0.10%を下回って推移する見込みであること、18・19日に日銀金融政策決定会合を控えていることなどから、調達サイドを中心に慎重な姿勢が見込まれる。レポ市場は、GC T/Nは引き続き▲0.100%を下回る水準でボラティルに推移すると見込まれる。短国市場は、17日に1Y物、18日に3M物の入札が実施予定となっている。GCレートが低水準で推移する中、市場動向が注目される。CP市場は、18日にCP等買入オペが3,500億円予定されている。市場残高が高水準であることからレートの低下余地は限定的で、前回と同様に増額されるかどうか注目点となる。また、先行きの不透明感が継続していることで、発行が増加する可能性も考えられる。

主要なイベントとしては、国内では18～19日金融政策決定会合、19日に2月の全国CPI、海外では17～18日にFOMC、が予定されている。新型コロナウイルスが金融市場に動揺を与える中、結果が注目される。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入